第４学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　４年２組教室　指導者　味岡　里紗

１　主題名　　少しくらいなら（C規則の尊重）

（教材名：雨ととの様　出典：生きる力４【日本文教出版】）

２　目　標

きまりをきちんと守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることに気付き、約束やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

集団生活や社会生活では、約束やきまりを守ることが求められており、一人一人が守っていくことで、集団や社会が成り立っている。約束や社会のきまり、公共のものや場所の大切さについては、「守るとよい気持ちになる」という結果だけでなく、誰もが同じように思いや願いをかなえられるようにするためにあるという視点から考えることが大切である。一人一人が身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共のものや場所との関わりについて考える機会は多くない。しかし、集団生活をよりよくしていくためには、相手や周りの人の立場に立ち、よりよい人間関係を築くとともに、集団の向上のために必要な約束やきまりについて十分に考えることが大切である。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、学校や社会にはさまざまな約束やきまりがあり、それらを守ることが大切であると理解している。しかし、「相手を怒らせたくない」「仲間外れにされたくない」など、自分が困った状況にならないために約束やきまりを守ろうとする傾向があり、その意義や大切さを十分に理解するまでには至っていない。また、「その場に応じて都合よくきまりを変えても、大きな問題が起こらなければかまわない」と捉えている児童も少なくない。本教材を通して、自分にもそのような考えがあることに気付き、約束やきまりを守ることは、個人や集団が安心して生活するために欠くことのできないものであることを理解できるようにしたい。そして、約束やきまりは誰もが同じように守るべきものであり、きまりはみんなで支えていくものであることについて考えを深められるようにしたい。

<教材のこんな魅力>【１時間完了】

・本教材では、家来と門番、殿様のそれぞれの立場の違いがはっきりしているため、きまりについての思いや考えの違いなどを比べて考えやすい教材である。
・「本当はだめだと分かっているけど、今だけなら…少しだけなら…」というような児童の日常の感覚に近い心の動きについて、取り出して考え合うことができる。
・身分や力の差があっても、約束や社会のきまりを「誰もが同じように守るべきもの」だということを、自然に感じ取ることのできる構成になっている。

<こんな手だてで>

・それぞれの立場の考えを、対比的に板書することで、登場人物それぞれの立場、きまりに対する思いや考えを捉えられるようにする。
・きまりが何のためにあるのか、誰のためにあるのかという観点を与えながら補助発問を行うことで、「きまりはみんなのためにあり、少しくらいいいかと変えていいものではない」と気付くことができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・きまりを守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることにつながることや、自分自身も社会の一員としてきまりを守る立場にあることに気付き、進んで約束やきまりを守ろうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず事前に実施したアンケート「きまりに対して、どんな思いをもっていますか」の結果を掲示する。学校生活の中にも多く存在するきまりに対する、児童の素直な思いを共有することで、本時の学習への導入を図る。

展開では、たぎわ門を開けさせようとする家来と、開けようとしない門番、それぞれの立場や思いについて考える。「たぎわ門は大切なときにしか通らない」というきまりよりも、「雨だから近道をしたい」という思いを優先しようとする家来の気持ちを考えることで、児童たちの日常生活にもある「少しくらいならいい」「今だけなら大丈夫」という、きまりを守り切れない人間の弱さに目を向けられるようにする。一方で、相手が殿様という身分の高い人物であっても、きまりを守ることを貫こうとする門番の思いを考えることで、約束や社会のきまりは、立場や力の違いに関わらず、誰もが等しく守るべきものであることに気付くきっかけとなるようにする。

中心発問では、家来と門番のやり取りを見て、にっこりとうなずいた殿様が気付いたことについて話し合う。きまりを定めた殿様自身が率先してきまりを守ろうとする姿から、きまりは一部の人だけが守るものではなく、社会で生活する誰もが守るべきものであることに気付けるようにする。また、一人一人がきまりを守ることが、自分だけでなく周りの人々の安心や安全な生活につながることについても考えられるようにする。

そして、導入で提示したアンケート「きまりに対して、どんな思いをもっていますか」について振り返る。学習前の考えと学習後の考えを比べながら、自分も社会の一員としてきまりを守る立場にあることや、きまりを守ることが自分や周りの人が気持ちよく、安心して生活できる社会につながることに気付けるようにする。終末では、授業を振り返り、きまりの意義について再度確認したい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、ホワイトボード、アンケート結果の拡大掲示

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　身の回りに存在するきまりについて振り返る。（3）	きまりに対して、どんな思いをもっていますか			
	・守るのは面倒。 ・先生に怒られるから守る。	・きまりがなかったら、学校がごちゃごちゃになりそう。	・みんなが気持ちよく過ごすために必要だから守りたい。	※事前アンケートの結果を提示し、身近にあるきまりとその理由を振り返ることで、価値への導入を図る。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　きまりを守るときに大切な思いは何だろう			
	・先生に怒られる前に守った方がいい。	・誰かにけがをさせないために守る。	・どんなときでもきちんと守ることが大切。	
3　教材文を読む。（3） 4　たぎわ門を開けさせようとした家来と、たぎわ門を開けようとしない門番のそれぞれの思いを考える。（13）	「門を開けっ」と言った家来は、どんなことを考えていたのかな			
	・門番のくせに生意気だ。こちらには殿様がいるんだぞ。 ・殿様が濡れないようにするために門を開けろ。	・急いで城に戻らないと殿様が濡れてしまって大変だ。 ・今だけ門を開けてくれたらそれでいい。	・少しくらいいいじゃないか。 ・そんなつまらないきまりを守るよりも、殿様が濡れないことの方が大事だ。	※通ってはいけないきまりがある「たぎわ門」を通ろうとする家来の気持ちを考えることで、「少しくらいなら…」という、誰もがもち得る、きまりを守り切れない人間の弱さに目を向けられるようにする。
	門を開けようとしない門番は、どんなことを考えていたのかな			
	・「開けろ」と言われても、きまりなのだから開けることはできない。	・殿様が通るのを許してしまったら、みんなもきまりを守らなくなってしまう。	・殿様であっても、誰であっても、この「たぎわ門」を通ることはできない。	※きまりを守り通そうとする門番の立場を考えることで、どの立場であってもきまりを守ることの大切さに気付くための足がかりとする。
5　家来と門番のやり取りを見ていた殿様の思いについて考える。（20）	びしょ濡れになりながらも、にっこりとうなずいた殿様はどんなことに気付いたのかな			
	・わたしが間違っていたのだな。 ・開けなかった門番は、自分の役目を一生懸命守っている。	・自分が作ったきまりなのに、自分が破ってしまうのはいけない。 ・みんなもきまりを守らなくなる。	・「たぎわ門」を通ったら、きまりの意味がなくなる。 ・どうしてきまりがあるのか考えなくてはならなかった。	※びしょ濡れになりながらも、晴れやかな心になった殿様の思いに注目させることで、きまりの意義やきまりを守るよさを考えられるようにする。
	・みんなが好き勝手にしないため。 ・「自分も守らなくていいや」って思う。	・みんなが同じようにきまりを守ることが大切。 ・みんなが破ると、きまりがきまりじゃなくなる。	・みんなの生活を支えるため。 ・みんなも破り始めて、気持ちよく生活できない。	【キーワードとなる児童の発言】 「きまりの意味」 「どうしてそのきまりがあるのか」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「きまりにはどんな意味があるの」 「殿様がきまりを守らず、たぎわ門を通っていたら、その後のみんなの様子はどうなっていくだろう」
	きまりを守るときに大切な思いは何だろう			
	・好き勝手に、きまりを変えたりしないで、きまりを守る。	・どんなときでも誰でも、きちんときまりを守ることが大切。	・一人一人がきちんときまりを守ると、みんなが快適に過ごせる。	※めあてに戻ることで、「きまりに対する思い」の広がりや深まりを捉えられるようにする。
6　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返ろう			
	・みんなが気持ちよく生活できるかどうかを考えたい。	・きまりは都合よく変えるものではなく、みんなが気持ちよく生活するためのものだと思った。	・みんなが使うところは、みんなでよりよいものにしようとすることが大切だと思った。	※導入に扱ったアンケートの内容を振り返りながら、きまりの意義について、児童の考えの広がりや深まりがあるかを確かめる。

（4）評　価

・きまりをきちんと守る姿勢がよりよい集団や社会をつくることなどについて考え、約束やきまりを進んで守ろうとする思いを表現しようとしている。（発言・ワークシート）